

読書週間

10月27日～11月9日

本と共に生きる
～人生の宝箱～

輝く島原人

THE SCENE Vol.25 島原に生きる

本の楽しさを伝える

小学生時代、担任の先生から「あ無情」（ヴィクトル・ユーゴー作）の話を聞き、強い衝撃を受け「是非、その本を読みたい」と思ったことが、山田さんの記憶に残る本との最初の出会いです。

「本」には自分が経験したことがないことや、味わったことのない感情がたくさん詰まっていた、現実とは違う世界を楽しめたり、たくさん知恵や生き方を教えてもらえます。

「もっと深く本や図書館のことを知り、多くの人に本を手渡したい」という思いから司書を目指したそうです。



第一小学校で毎週絵本の読みかたをする山田さん。性別や年齢関係なく、真剣に聞く子どもたちの眼差しが大好きだそうです。



児童館の子どもたちに、読みかたを始め、手あそびや折り紙あそびなどを通して、大人や地域との触れ合いを大切にする山田さん。

子どもたちに出来ること

司書として「読書」を勧める理由は、「紙を一枚ずつめくり、違う世界に入っていく楽しさを知ることで、さまざまな経験や感情、考えを積み重ね、心が育っていくように思えるからです」と話してくれました。

あまり本を読まない子どもにも本を紹介したところ、「面白かったです」と感想を伝えるに来てくれ、十数冊あったシリーズを読破してくれたことが複数の学校であり、今でも忘れられない嬉しい思い出そうです。逆に何を紹介しても借りるだけで読まない子どももいるので、「いかにして読書力をつけていくかが大きな課題です」と、司書としての胸の内を話してくれました。

便利で素早く情報が得られる電子書籍にはない紙媒体の良さは、「紙をめくる行為の心地よさと、何度も自由に先へ進んだり、後戻りしたりできること」だそうです。「本に触れ、活字に触れ、紙に印刷された絵に触れることで本の良さを知り、読書力が育まれると思います」と教えてくれました。

今の子どもたちは忙しく、楽しむ選択肢も増えたため、本をあまり読まなくなったと言われますが、「本に対する反応」は変わらないそうです。読みかたを始めると、子どもたちは本の世界へすぐ入ってきます。「子

どもは本が大好き」ということです。

周囲の大人がちょっと声をかけたり、一緒に読むだけで、本が好きな子どもはたくさんいると信じて、司書の仕事をしているそうです。

山田さんの好きな言葉は「継続は力なり。」あまり力まず、好きなことを、好きな仲間たちと30数年続けてきました。今は子どもたちの読書の質と読書力を高めるため、家庭はもちろん地域や学校が一丸となり、子どもたちの読書活動の推進に取り組みたいそうです。「市民が参加できる、読書に関する講演会やイベントなども近年なかったのが、実現に向けてこれからも頑張りたいです」と今後の目標を語ってくれました。

「人生の達人」

やまだ かずこ
山田 和子さん

佐々町で生まれ、幼少期を江迎町（現佐世保市）で過ごす。東京の大学を卒業後、教職に就き結婚・出産を機に、絵本の読みかたを始め、37年前に島原へ生活の場を移す。市内中学校の国語講師や教育委員会での職務を経て司書資格を取得し、平成19年から学校司書として市内小中学校で勤務している。

島原図書館協議会委員副委員長、第二次島原市子ども読書活動推進計画策定委員会委員副委員長、市制施行70周年記念表彰 教育文化功労（平成22年）